

# 土曜 ライフ・楽しむ

## 長いトンネル 出口見えるか

# わたし色

生活情報誌「悠悠と。」

編集長・真鍋康利



それを言いたくて私を同行者に指名してくれたようです。結局転職することになりましたが、今でもトンネルを走るたびに思い出します。

のも確かで、それだけがメリツトでしょうか。

会社が創業期だったからかもしれないですが、その後も会社のビジョンや将来の展望は見えます。畑に入れない冬場は兄弟会社に出稼ぎです。

その兄弟会社の幹部の運転手をして地方を回ったことがあります。あるトンネルの中で彼は、「どうも君のいる会社は先行きが不透明だ。社長（両社とも同じ人）はあまり熱心には見えない。トンネルは向こうに出口があるのが分かっているから頑張れるが、その出口が見えないもんな。今のうちによく考えた方がいいぞ」と言います。

出口のないトンネルはただの横穴です。途中にカーブや坂があると見えませんが、出口は必ずあります。自動車道では全長が表示され、ナビでもあと〇キロとアナウンスされるので、緊張の持続が可能です。プロ野球で敗戦が続くと「トンネルに入った」と言い、負のイメージもありますが、そこを抜けると輝く日の光を見ることが出来ます。

それにしてもコロナのトンネルは長い、出口があるのでしょうか。私たちも早く日の光を見たいものです。ワクチン接種が非常口かと少し期待していますか……。

「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」。川端康成「雪国」の有名な書き出しですが、北海道ではトンネルの手前も向こう側も雪国です。特に入り口、出口は凍結に注意がいるし、中は乾いて見えても凍っていることがあり、スピードを控える必要があります。

明るい屋外から急に暗いところに入ると、壁の圧迫感で自然に中央線に寄り気味になり、これも要注意。こんなとき長いトンネルでは非常口の表示が見えると安心します。



半世紀ほど前のことですが、最初に勤めた会社で、札幌を離れて農作業のため民家を借り6、7人で集団生活を送っていました。

初めての給料日、金庫番がやってきておもむろに正座し、「すまん。3日ほど待つてくれ」と言います。何ごとかと思っていると、よくあることらしく先輩らが、「支払いの予定がある」と困った顔です。すると「少しは持ってきたので、どうしても必要な人は言ってくれ。前払いするから」とのこと。

私は取り立ててすぐに必要とする予定もなかったので黙っていました。しかし、これはエライところに来たぞ、と驚いたものです。こんな幕開けでしたから、その後たいがいのごとでは驚かなくなっ